

様式 1

教科用図書第 3 採択地区調査委員会

(書 写) 小委員会委員長

白 川 清 久 印

調査研究	1 審議の経過 (1) 審議の対象となった発行者名及び数 ・東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書、日本文教出版の 6 者 (2) 調査研究の手順 ・第 1 回調査委員会（6 月 2 6 日）で 6 者の教科書を配布し、調査の観点や手順を協議した。 ・第 2 回調査委員会（7 月 1 5 日、1 6 日）に、各自の調査研究を基に内容別に協議し、様式 1 について整理するとともに、全体を通して各者の特徴をまとめ、様式 2、様式 3 を作成した。 (3) 調査研究のための観点、項目 ・取扱内容については、学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか、また、知識・技能の習得、活用、探究に対応できるような内容が取り扱われているかという視点で調査し整理した。 ・内容の程度・排列・分量等については、内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達段階に応じて系統的に組織されているか、また、内容の分量が領域等ごと、全体としてどのようになっているかという視点で調査し整理した。 ・使用上の配慮等については、児童の学習意欲を高める工夫や主体的に学習に取り組めるような工夫がされているか、また、目次など使用上の便宜は図られているかという視点で調査し整理した。
全体を通じての特徴	2 審議経過の概要 (1) 東京書籍については、学習したことを他教科や日常生活へ活用できるような配慮という特色があり、優れている。 学校図書については、学習の進め方を意識させ、振り返りができるような配慮という特色があり、優れている。 三省堂については、学習過程を工夫し、気づきを促すような配慮という特色があり優れている。 教育出版については、基礎的・基本的な内容をおさえ、日常生活に活用できるような配慮という特色があり優れている。 光村図書については、児童の発達の段階を考慮し、系統的な学習ができるような配慮という特色があり優れている。 日本文教出版については、各学年の発達の段階を考慮し、単元のねらいを焦点化できるような配慮という特色があり優れている。 (2) その他、東京書籍と教育出版については、興味・関心を高める書写に関する資料が多く掲載されていることについての話題が出されていた。

書写に関する事項について
【教科の目標】 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。
【学年・領域等の目標など】 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]のうち、書写に関する事項 [第1学年及び第2学年] ア 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。 [第3学年及び第4学年] ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。 [第5学年及び第6学年] ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

【参考】

- 国語科については、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

そのため、現行の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」からなる領域構成は維持しつつ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。また、現行の「言語事項」の内容のうち各領域の内容に関連の深いものについては、実際の言語活動において一層有機的にはたらきよう、それぞれの領域の内容に位置付けるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。

また、「言語文化と国語の特質に関する事項」を設け、我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりするための内容を示す。

- 子どもたちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し、重点的な指導が行われるようにする。その際、小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては社会生活に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。
- 古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。

漢字の指導については、実生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、確実な習得が図れるよう、指導を充実する。書写の指導については、実生活や学習

場面に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

敬語の指導については、人間関係を円滑にし、日常の言語活動を豊かにするため、相手や場に応じた言葉遣いが適切にできるようにすることを重視する。言葉のきまりの指導については、系統的に指導するとともに、実際に文章を書いたり読んだりするときなどに役立つよう、指導の改善を図る。

読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける。教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く読まれている古典や近代以降の作品などを、子どもたちの発達の段階に応じて取り上げるようにする。

○ 標準授業時数

毛筆を使用する書写の指導に配当する授業時間は、第3学年以上に「年間30単位時間程度」とする。

様式 3

番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
観 点	2・東書	第1学年	書写131	新編 あたらしい しよしゃ 一
		第2学年	書写231	新編 新しい しよしゃ 二
		第3学年	書写331	新編 新しい 書写 三
		第4学年	書写431	新編 新しい 書写 四
		第5学年	書写531	新編 新しい 書写 五
		第6学年	書写631	新編 新しい 書写 六
		取 扱 内 容	学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～ 点画の長さや方向の違いに気を付けて書いたり、点画の付き方を比較したりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ 筆順や漢字の組立てに気を付けて書いたり、漢字と仮名の大きさを比較しながら書いたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ 文字のつながりを意識して書いたり、手紙やパンフレットなど様々な用紙に書いたりする活動を通して、文字の大きさや配列などを決めて書く。
○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形や交わり方、つき方や間隔、筆順など筆の動きに気を付けながら書く活動を通して、点画の種類を理解し、筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 4字までの漢字や平仮名、漢字仮名交じりの題材で、点画相互や文字のつながり、配列に気を付けながら書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。				
○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 文字の中心、筆順と字形、上下の文字の組立て方の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 筆順や点画のつながり、文字の配列の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。				
○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「生活に広げよう」において、いろいろなものに名前を書いたり、お世話になった人たちへお礼の手紙を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「生活に広げよう」において、調べたことを観察カードに整理したり、点画の長さや方向、上下の組立て方に気を付けて書き初めを書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第5,6学年～ 「生活に広げよう」において、適切な筆記具を選んでカードや寄せ書きを書いたり、調べたことを配列を工夫したしおりを作成したりするなど、実生活との関連を図った活動				

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「曲がり・折れ・おりかえし」「とめ・はらい・はね」など、点画や筆順、字形についての学習の後に、漢字や片仮名の学習を取り扱うなど系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「玉・日」などの画の長さや方向や「王・父」など点画の接し方や交わり方の学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「下」などの横画・縦画や「大」などのはらいについての学習の後に、2字の平仮名の「曲がり」の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「羊」などの画の長さや間隔や「麦」などの画の方向を学習した後に、2字の漢字の筆順や字形、文字の組み立て方を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 毛筆と硬筆の関連を図った「道」などの組立てや「成長」などの筆順についての学習の後に、様々な用紙に応じて書く学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 毛筆と硬筆の関連を図った「湖」などの組立てや「牧場」などの筆順と点画のつながりについての学習の後に、字間や行間、余白など配列について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は30ページであり、総ページ数は41ページで、前回と同様となっている。 第2学年～ 硬筆は28ページであり、総ページ数は41ページで、前回と同様となっている。 第3学年～ 硬筆は4ページ、毛筆は20ページであり、総ページ数は49ページで、前回と同様となっている。 第4学年～ 硬筆は3ページ、毛筆は19ページであり、総ページ数は49ページで、前回と同様となっている。 第5学年～ 硬筆は4ページ、毛筆は19ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約9パーセント増となっている。 第6学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は20ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約9パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 学習のポイントを説明するキャラクターが登場したり（全学年）、「かさこじぞう」（第2学年）や「竹取物語」（第5学年）などの国語科との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、インデックスで既習事項を確認し、個別の課題に対応できるようにしたり（第3～6学年）、自己評価欄を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の紙面を大きくすることで書き込み欄を増やしたり（全学年）、毛筆の学習手本を半紙原寸サイズで提示することで大きさや位置を視覚的に理解しやすいようにしたり（第3～6年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式 3

番 号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教 科 書 名
	1 1 ・ 学図	第 1 学年 第 2 学年 第 3 学年 第 4 学年 第 5 学年 第 6 学年	書写132 書写232 書写332 書写432 書写532 書写632	みんなとまなぶ しょうがっこうしよしゃ 一ねん みんなと学ぶ 小学校しよしゃ 二年 みんなと学ぶ 小学校書写 三年 みんなと学ぶ 小学校書写 四年 みんなと学ぶ 小学校書写 五年 みんなと学ぶ 小学校書写 六年
観 点				
取 扱 内 容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～ 点画の長さや方向に気を付けて書いたり、点画の長短や方向を比較したりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ 漢字と仮名の大きさを比較しながら書いたり、漢字の組立てや配列に気を付けながら書いたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ 点画のつながりを意識して書いたり、短冊やポスターなど様々な用紙に書いたりする活動を通して、文字の大きさや配列などを決めて書く。			
	○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、いろいろな点画の形や交わり方、接し方や筆順、字形など筆使いに気を付けながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 4字までの漢字や平仮名、漢字仮名交じりの題材で、点画のつながりや配列に気を付けながら書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。			
各 学 年 の 目 標 、 内 容 等	○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 文字の大小、漢字の部分の組立て方についての理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 漢字と仮名の大きさの違いや文字の配列の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。			
	○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「しりょう」において、観察カードを書いたり、チョークやクレヨンなどの筆記具を用いて文字を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「資料」において、ローマ字で名前や地名を書いたり、漢字や仮名の大きさや配列に気を付けて学級新聞を作成したりするなど、実生活との関連を図った活動 第5,6学年～ 「資料」において、用紙や用具を選んで卒業生へのメッセージを作成したり、文字の大きさと配列に気を付けて「連詩」を作成したりするなど、実生活との関連を図った活動			

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「とめ・はね・はらい」「折れ・曲がり・むすび」など、点画や筆順、字形についての学習の後に、漢字や片仮名の学習を取り扱うなど系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「工・園」などの画の長さや方向や「口・父」などの点画のつき方・交わり方についての学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「十・日」などの点画の筆使いや「ビル」などの「曲がり」や「折れ」についての学習をした後に、2字の平仮名や漢字の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「友」などの点画の交わり方と接し方や「左右」などの筆順と字形を学習した後に、平仮名の結びや字形を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 毛筆と硬筆の関連について「道」などの筆使いや「あこがれ」などの点画のつながりについての学習の後に、漢字仮名交じりの配列を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 毛筆と硬筆の関連について「風」などの「かまえ」の筆使いや「発展」などの点画のつながりと組立てについての学習の後に、漢字仮名交じりの大きさと配列を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は30ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約11パーセント増となっている。 第2学年～ 硬筆は32ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約24パーセント増となっている。 第3学年～ 硬筆は8ページ、毛筆は29ページであり、総ページ数は49ページで、前回と同様となっている。 第4学年～ 硬筆は12ページ、毛筆は30ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約10パーセント増となっている。 第5学年～ 硬筆は8ページ、毛筆は25ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約10パーセント増となっている。 第6学年～ 硬筆は4ページ、毛筆は30ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約9パーセント減となっている。
使用上の配慮等	○ 学習のポイントを解説するキャラクターが登場したり（全学年）、「俳句」（第2学年）や「枕の草子」（第5学年）などの国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、学習の過程を一覧にした「毛筆学習の進め方」掲載したり（第3～6学年）、自己評価欄を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に文字に関連した教材を掲載したり（全学年）、毛筆の学習手本を半紙原寸サイズで提示して大きさや位置を視覚的に理解しやすいようにしたり（第3～6年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式 3

番号 観 点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	15・三省堂	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	書写133 書写233 書写333 書写433 書写533 書写633	しょうがくせいのおしゃ 一ねん 小学生のおしゃ 二年 小学生の書写 三年 小学生の書写 四年 小学生の書写 五年 小学生の書写 六年
取扱 内容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～ 点画の長さや方向の違いに気を付けて書いたり、点画の長短や方向に注意して書いたりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ 漢字の組立てや筆順に気を付けて書いたり、漢字や仮名の大きさと配列を比較しながら書いたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ 封筒やノートに合わせて書いたり、カードやパンフレットを書いたりする活動を通して、文字の大きさや配列などを決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、いろいろな点画の形や交わり方、接し方や間隔、筆順など筆使いに気を付けながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 漢字や漢字仮名交じりの題材で、文字の大きさや配列、筆順や点画相互、文字のつながりに気を付けながら書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 漢字の組立て、漢字と仮名の大きさの違いの理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 書く速さや筆順、点画のつながりの理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「ひろげよう」において、1年生の思い出を書いて紹介したり、友達や身近な人にお礼の手紙を書いて伝えたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「ひろげよう」において、学校行事に招待するはがきを書いたり、学校の出来事や調べたこと、見学したことなどを新聞にまとめたりするなど、実生活との関連を図った活動 第5,6学年～ 「ひろげよう」において、学校の授業で調べたことや社会科見学で見聞きしたことをレポート用紙に書いたり、目的に合わせて書き方と筆記用具を考えてポスターを書いたりするなど、実生活との関連を図った活動			

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「とめ・はらい・はね」「まがり・むすび・かたち」など、点画や筆順、字形についての学習の後に、片仮名や漢字の学習を取り扱うなど系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「土・大」などの画の長さや方向や「入・牛」などの点画のつき方や交わり方についての学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「下」などの点画の書き方や「木」などの「はらい」についての学習の後に、2字の平仮名の「曲がり」の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「光」などの「曲がり」の書き方や「式」などの「そり」についての学習の後に、2字の漢字の筆順や字形、平仮名の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 毛筆と硬筆の関連について「仲間」などの文字の部分の整え方や「知る」などの漢字と平仮名の大きさについての学習の後に、様々な用紙に応じて書く学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 毛筆と硬筆の関連について「団結」などの字形や「晴れた空」などの文字の大きさと配列についての学習の後に、目的にふさわしい筆記具と書き方について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は36ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約3パーセント増となっている。 第2学年～ 硬筆は33ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約3パーセント増となっている。 第3学年～ 硬筆は2ページ、毛筆は33ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約2パーセント増となっている。 第4学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は30ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約2パーセント増となっている。 第5学年～ 硬筆は19ページ、毛筆は14ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約2パーセント増となっている。 第6学年～ 硬筆は25ページ、毛筆は17ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約2パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 学習のガイダンスをするキャラクターが登場したり（全学年）、「かさこじぞう」（第2学年）や「竜」（第6学年）などの国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、毛筆で学習した点画の特徴を硬筆で確認できる書き込み欄を設けたり（第3～6学年）、書く教材の最後に自己評価の観点を示したり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に書写に関連した教材や資料を掲載したり（全学年）、書き初めの学習手本を長半紙サイズで提示して大きさや位置を視覚的に理解しやすいようにしたり（第3～6年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式 3

番 号 観 点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教 科 書 名
	17・教出	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	書写134 書写234 書写334 書写434 書写534 書写634	しょうがくしょや1 小学しょや2 小学書写3 小学書写4 小学書写5 小学書写6
取 扱 内 容 各 学 年 の 目 標 、 内 容 等	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている 第1,2学年～ 点画の長さや方向に気を付けたり、画の接し方や交わり方に気を付けて書いたりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ いろいろな文字の組立て方に気付いたり、筆順に気を付けて書いたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ ポスター用紙や色紙など様々な用紙に合わせて書いたり、用紙全体との関係に注意して書いたりする活動を通して、全体の構成などを決めて書く。			
	○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形とその形を作る筆の運び方に注意しながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 漢字仮名交じりの文言の題材で、小筆や筆ペンなどを使用して点画と点画のつながり、字配りよく書くための要点を意識して書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 筆圧や筆使い、筆順と点画の接し方の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 文字の組立てや大きさ、目的にあった筆記具の利用など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「かいてつたえよう」において、友達のよいところをカードに書いたり、お世話になった人に招待状を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「書いて伝えよう」において、おすすめの本のカードを書いたり、記事の配置を考えて筆記具を工夫して新聞を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第5,6学年～ 「書いて伝えよう」において、様々な筆記具を使ってポスターなどを書いたり、思い出に残る卒業記念文集を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動			

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「止め、払い」「曲がり、折れ」など、点画や文字の形についての学習の後に、片仮名や漢字の学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「十・上」などの筆順や「作・文」などの点画の接し方や交わり方についての学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「土」などの漢字の始筆、送筆、終筆や「大」などの「払い」の筆使いについての学習の後に、2字の平仮名の「曲がり」について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「花」などの基本点画の反復や「右・左」などの筆順や字形についての学習の後に、点画の接し方、交わり方を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 文字の組立て方について「土地」などの偏と旁や「道」などの中心と外の部分についての学習の後に、硬筆を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 毛筆と硬筆の関連について「友情」などの組立て方や点画のつながりや「歴史」などの中と外の組立てについての学習の後に、硬筆で学習した余白、字間について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は39ページであり、総ページ数は45ページで、前回より約13パーセント増となっている。 第2学年～ 硬筆は33ページであり、総ページ数は41ページで、前回より約3パーセント増となっている。 第3学年～ 硬筆は6ページ、毛筆は35ページであり、総ページ数は59ページで、前回より約13パーセント増となっている。 第4学年～ 硬筆は8ページ、毛筆は33ページであり、総ページ数は57ページで、前回より約10パーセント増となっている。 第5学年～ 硬筆は10ページ、毛筆は28ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約11パーセント増となっている。 第6学年～ 硬筆は3ページ、毛筆は34ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約11パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 学習のガイダンスをするキャラクターが登場したり（全学年）、「おおきなかぶ」（第1学年）や「枕草子」（第6学年）などの国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、学習のポイントや他の文字での応用を図る段階を示したり（4～6学年）、教材ごとに自己評価欄を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に折り込みの書写に関連した教材（全学年）や、裏表紙に児童自らが繰り返し確認できるよう筆記具の持ち方（全学年）を示したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式 3

番号 観 点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	書写135 書写235 書写335 書写435 書写535 書写635	しよしゃーねん しよしゃ二年 書写三年 書写四年 書写五年 書写六年
取扱 内容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～ 点画の形と方向に気を付けて文字をなぞったり、画の接し方や交わり方を考えたりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ 漢字が偏になった時の形の違いを考えたり、筆順に気を付けて書いたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ 様々な大きさの用紙に合わせて書いたり、用紙全体との関係に注意して書いたりする活動を通して、文字の大きさや配列などを決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形とその形を作る筆の動きに注意しながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 漢字仮名交じりの文言の題材で、小筆や筆ペンなどを使用して点画相互、文字のつながりを意識して書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような内容や学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 点画の筆使いや文字の配列についての理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 穂先の動きや点画のつながり、文字の大きさや配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「しりょう」において、あさがおの観察カードなど、横書きの文章を書いたり、友達に縦書きと横書きの手紙を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「しりょう」において、書く位置や文字の大きさに気を付けてはがきを書いたり、新聞を読みやすく書く工夫を確かめたりするなど、実生活と関連を図った活動 第5,6学年～ 「資料」において、文字の大きさや配列などに気を付けて新聞などを書いたり、ノートの書き方やメモの取り方を確かめて文章を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動			

学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「止め、払い」「曲がり、折れ」など、点画や文字の形の学習の後に、片仮名や漢字の学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「三・川」などの筆順や「千・口」などの「払い」や「折れ」の方向についての学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「二・土」などの始筆、送筆、終筆や「日・木」の「折れ」や「払い」についての学習の後に、漢字の中心を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「左・右」などの筆順と字形や「原・皮」などの接し方の学習をした後に、部分の組立てや漢字の大きさを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 毛筆について「平・和」などの穂先の動きや「も」などの点画のつながりを学習した後に、行の中心や文字の大きさ、配列について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 硬筆と毛筆の関連について「湖」などの三つの部分の組立て方や「あけび」などの穂先の動きと点画のつながりについての学習の後に、書き方のリズムを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は36ページであり、総ページ数は39ページで、前回より約2パーセント増となっている。 第2学年～ 硬筆は31ページであり、総ページ数は37ページで、前回より約16パーセント増となっている。 第3学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は42ページであり、総ページ数は55ページで、前回より約15パーセント増となっている。 第4学年～ 硬筆は7ページ、毛筆は34ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約2パーセント増となっている。 第5学年～ 硬筆は13ページ、毛筆は26ページであり、総ページ数は47ページで、前回より約7パーセント増となっている。 第6学年～ 硬筆は6ページ、毛筆は27ページであり、総ページ数は49ページで、前回より約11パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 児童の課題解決のヒントを与えるキャラクターが登場したり（全学年）、手紙の書き方（第3学年）、「枕草子」（第5学年）などの国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、当該学年のまとめとして児童が課題を選択して学習する教材を設定したり（第3～6学年）、教材ごとに自己評価欄を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に学習内容全体を示した「学習の進め方」を配置したり（第4～6学年）、巻末に書写に関連したコラム的な記事（第2～6学年）を掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式 3

番 号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教 科 書 名
観 点	1 1 6 ・ 日 文	第 1 学年 第 2 学年 第 3 学年 第 4 学年 第 5 学年 第 6 学年	書写136 書写236 書写336 書写436 書写536 書写636	しょうがくしよしゃ 一ねん 小学しよしゃ 二年 小学書写 三年 小学書写 四年 小学書写 五年 小学書写 六年
取 扱 内 容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～ はらいの向きに気を付けて書いたり、点画の長短や方向、接し方や交わり方について考えたりする活動を通して、文字を正しく書く。 第3,4学年～ 部首と他の部分の組立て方について考えたり、左右や上下の部分の大きさや位置の違いを考えたりする活動を通して、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～ ポスターや色紙など様々な用紙に合わせて書いたり、用紙全体との関係に注意したりする活動を通して、文字の大きさや配列などを決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形とその形を作る筆の動きに注意しながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く。 第5,6学年～ 1～2字の漢字や平仮名の題材で、筆順に注意して点画相互、文字のつながりを意識して書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～ 文字の組立てや筆順と字形の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～ 文字の大きさ、配列などの理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～ 「ひろがるまなび」において、観察したことについて夏休みの絵日記を書いたり、フェルトペンで年賀状を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第3,4学年～ 「広がる学び」において、丁寧な文字で老人クラブへのお礼の手紙を書いたり、文字の大きさを考えて学級新聞を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動 第5,6学年～ 「広がる学び」において、目的に応じた筆記具を選びポスターを書いたり、電話しながら大切な要件をメモに書いたりするなど、実生活との関連を図った活動			

学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 平仮名について「止め、払い」「折れ、曲がり」など、点画や文字の形の学習をした後に、片仮名や漢字の学習について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 漢字について「目・四」などの文字の形や、「上・下」などの点画の接し方や交わり方についての学習の後に、文章表記を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 毛筆について「いろいろな線」の筆圧や「一」の始筆、送筆、終筆の学習をした後に、1字の漢字の筆使いや漢字の中心について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第4学年～ 毛筆について「光」などの1字の漢字の基本点画や「麦」などの間隔、方向の学習をした後に、2字の漢字の筆順と字形の関係、部分の組立てを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第5学年～ 毛筆と硬筆の関連について「花」などの全学年で学習したことの復習や「道」などの漢字の組立てや字形についての学習の後に文字の大きさや配列について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第6学年～ 毛筆について「湖」などの3つの部分がある漢字の組立て方や「飛」などの点画のつながりについての学習の後に、3字以上の文字の大きさ、配列、余白について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～ 硬筆は39ページであり、総ページ数は40ページで、前回と同様となっている。 第2学年～ 硬筆は33ページであり、総ページ数は40ページで、前回と同様となっている。 第3学年～ 硬筆は8ページ、毛筆は35ページであり、総ページ数は52ページで、前回と同様となっている。 第4学年～ 硬筆は11ページ、毛筆は37ページであり、総ページ数は52ページで、前回と同様となっている。 第5学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は35ページであり、総ページ数は52ページで、前回と同様となっている。 第6学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は34ページであり、総ページ数は52ページで、前回と同様となっている。
使用上の配慮等	○ 目標の達成に向けたヒントを投げかけるキャラクターが登場したり（全学年）、本の紹介（第4学年）や随筆（第6学年）などの国語の教科用図書との関連を図った言語活動を取り入れたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写の学び方について、教材ごとに学習内容について自己評価欄を設けたり（全学年）、まとめて課題を設定できるようにしたり（第3～6学年）するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に1年間の学習の見通しをもたせる「学習のめあて」（全学年）や、巻末に次の学年の学習内容を示す「チャレンジ」（第2、4、5学年）を掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	